

領域・小問ごとの分析	対策の視点
<p>は87%と大きな開きがでた。 悪い結果が出た(1)の場合での誤答は、15gが圧倒的に多い。 これは、$30(g) \times 1 = A(g) \times 3$として解くべきところを$30(g) \times 1 = A(g) \times 2$として解いたために起きた誤りで、これに対して、良い結果が出た(2)の場合では、図の表示の仕方から、上記のような誤りを起こす可能性がなかったものと判断される。</p>	<p>「支点はどこか」をはっきりと押さえさせる必要がある。</p>
<p>領域 C (地球と宇宙)</p> <p>18. 太陽と気温の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> 地面の温度より気温の方が速く上昇するとした誤答が多い。 正答率は61%である。 <p>19. 太陽の高さの測定方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 正答率は46%と低く、太陽の高さの定義が定着していない。 「地面から太陽までの距離」という誤答がきわめて多い。 <p>20. 太陽の高さ、地温・気温の日変化の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> 正答率は44%と低い。 時刻・高さ・温度と三要素を含むグラフのため、グラフの見方を十分理解していないためのもと考えられる。気温と地温を混同している誤答がきわめて多い。 <p>21. 季節と太陽の高さの関係</p> <ul style="list-style-type: none"> 正答率は81%とよく理解されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地面の温度と気温を実際に測定させ、その結果をグラフ化し、更に考察を加えた指導が必要である。 太陽の高さは「距離」ではなく、「角度」で表わされることを、実際に測定させながら理解させることが必要である。 特殊なグラフの見方にも慣れるよう、機会をとらえて指導する必要がある。また、気温と地温の最高温度の時刻の違いを、実際に測定させて理解させることが大切である。 太陽の見かけの動き方や高さ、昼夜の時間の長さの関係は、観測の結果をもとに考察させることが必要である。
<p>領域 B (物質とエネルギー)</p> <p>22. ろうそくの炎の明るさと温度</p> <p>(1) ろうそくの炎の明るさについてわかる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外炎は光が弱く見えにくいので、次の(2)などの観察のように、実験方法を工夫して炎の